

第一部 政況關係

第一章 總說

(イ) 大戰亂ノ原因、(ロ) 大戰亂ノ經緯、

(ハ) 戰後ノ政局

(イ) 「大戰亂ノ原因」

統一ノ形

一昨年（民國十七年）六月國民革命軍ノ北伐成功シ次テ十

月國民政府ノ五院制度樹立ヲ見更ニ同年末東三省ノ易幟斷

行アリ當時支那ノ情勢ハ一應既ニ統一ノ形態ヲ示スニ至レ

ルモ事實ニ於テハ中央ニ在ル蔣介石ニ對シ馮玉祥、閻錫山、

軍閥割據

廣西派（李宗仁及李濟琛）並張學良等軍閥將領各々地方ニ

割據シテ江蘇、浙江、安徽、江西等ノ數省ヲ除イテハ國民

蔣ノ中央  
集權主義

政府ノ威令殆ト行ハレス爲ニ蔣介石ハ夙ニ右地盤割據ノ弊  
風ヲ打破シテ中央集權ヲ實現セムト志シ客年一月以來或ハ  
裁兵ニ名ヲ藉リテ諸軍閥ノ勢力ヲ削ラムト策シ（客年一月  
及八月ノ二回ニ亘リテ國軍編遣會議ヲ開催セリ）或ハ第三  
次全國代表大會（客年三月中旬開催）ニ於テ中央ニ反抗ス  
ル左派（改組派）ヲ彈壓シテ南京政府ノ確立ヲ計ルニ努メ  
タルカ右ハ何レモ諸軍閥乃至國民黨諸派（改組派並西山派  
等）ノ反感ヲ招クニ留マリ之カ爲客年三月或ハ大廣西派（  
武漢及兩廣ニ勢力ヲ張り兵力約二十万ヲ有シタリ）ト衝突  
シ又五月馮玉祥（河南、陝西、甘肅等ヲ地盤トシ精兵二十  
五万ヲ擁スル大勢力ナリキ）ト交戦スルニ至レルカ蔣ハ常

蔣ノ武力  
統一策

反蔣軍ノ  
蜂起

閻錫山ノ  
反蔣加擔

大戰勃發

3  
(ロ) 「大戰亂ノ經緯」

ニ精銳ナル武力（直屬軍約二十万）ト比較的豊富ナル財力  
ニ依リ克ク敵ヲ壓倒シ來レリ。然ルニ右蔣ノ武力統一策ハ  
各地軍閥ヲシテ自己保全ノ必要上互ニ合縱連衡シテ中央ニ  
抗爭スルニ至ラシメ客年九月張發奎ノ叛亂以來北方ニ於テ  
ハ西北軍南方ニ於テハ廣西軍交々討蔣ノ兵ヲ動カシ客年末  
更ニ石友三及唐生智ノ背叛アル等各地ニ於ケル反亂ハ次第  
ニ廣大シ本年初頭頃ニ及ンテハ從來中央擁護ノ態度アリシ  
閻錫山（山西、綏遠及平津地方ヲ地盤トシ兵力約二十万ヲ  
有ス）モ亦漸次反蔣的態度ヲ表示スルニ至リ遂ニ本年五月  
馮、閻其他ノ反中央諸軍閥對蔣介石ノ大戰亂勃發ヲ見タリ

空前ノ大  
抗爭

中央軍ノ  
優勢

右戰亂ニ於テハ東北四省並四川、雲南、貴州等ヲ除ク支那  
全土ノ軍閥悉ク中央、反中央ノ何レカニ加擔シテ輸贏ヲ決  
セムトスルノ有様ニシテ相對スル兵力合セテ八、九十萬ニ  
達シ其ノ戰線ハ山東、河南ヲ經テ遠ク湖南ニ跨ル空前ノ大  
抗爭トナリシカ當初兩軍ノ勢力略伯仲ノ間ニアリ五月上旬  
開戰以來兩軍一進一退ヲ繰返スノミニシテ戰局何時果ツヘ  
シトモ思ハレサルノ有様ニアリタリ。乍然軍費並武器ニ優  
ル中央側ハ總帥蔣介石ノ果斷敏捷ナル策戰ト相俟ツテ次第  
ニ優勢ヲ示スニ至リ即チ六月中旬湖南ニ侵入シテ武漢ニ向  
ヒ北進中ノ張桂軍ヲ擊破シ其兵力ヲ返シテ折柄六月二十五  
日濟南占領後膠濟線及津浦線ヲ南下シ來レル山西軍攻撃ニ

山西軍ノ  
惨敗

東北側ノ  
中央支持

北方政府  
ノ立消へ

轉シ八月十五日同軍ニ致命的打撃ヲ加ヘテ之ヲ黄河以北ニ  
擧攘セル處右中央軍ノ優勢ハ從來不即不離ノ態度ヲ持シ關  
内時局ノ發展ヲ觀望シツツアリシ東北ノ張學良ヲシテ愈々  
北方ニ見切リヲ附ケテ中央支持、和平勸告ノ名目ノ下ニ關  
内出兵ヲ斷行スルニ至ラシメタリ。

右東北側ノ中央支持並關内出兵ハ戰局ノ上ニ決定的影響ヲ  
齎ラセルモノノ如ク是ヨリ先北平ニ樹立ヲ見ムトシツツア  
リシ改組派、西山派、並閻派、馮派、廣西派等實力各派聯  
立ノ北方政府ハ其儘立消ヘトナリ山西軍ハ東北軍トノ衝突  
ヲ避ケテ京津ノ地盤ヲ棄テ山西省ニ退キ一方開戰以來兩軍  
主力ノ交戰場タリシ河南方面ニ於テハ孤軍ヨク奮闘ヲ續ケ

## 西北軍敗退

## 戰局一段落

ツツアリシ西北軍モ勢ニ乗シテ總攻撃ニ移レル中央軍ノ銳鋒ヲ支ヘ得ス十月上旬或ハ中央ニ投降シ又ハ武装解除セラ  
ルルモノ續出ノ有様ニシテ遂ニ十月四日鄭州ヲ棄テ一部ハ  
陝西省方面ニ一部ハ黄河以北ニ退却シ茲ニ半歲ニ亘レル大  
戰亂ハ中央側ノ絶對的優勝ヲ以テ一段落ヲ告グルニ至レリ。

## (ハ)「戦後ノ政局」

## 中央側ノ態度

## 東北側ノ態度

戦後中央ハ武力統一策ノ抛棄、一黨專制ノ緩和等ヲ標榜シ  
テ人心ノ安定ニ腐心スルト同時ニ東北トノ協調維持ニ努メ  
ツツアリシカ一方東北側ニ於テモ中央トノ協調ニヨリ黄河  
以北ニ地盤擴張ヲ圖ラムト欲シタルカ如ク專ラ中央支持ヲ  
表明シツツアリシヲ以テ兩者ノ關係相當密接ナルモノアリ

## 閻ノ下野

シ模様ニシテ之カ爲東北ノ助力ヲ藉リテ殘存勢力ノ保有ヲ計ラムトセル閻錫山モ遂ニ十一月四日下野ヲ聲明スルニ至リ目下外遊準備中ノ趣ナル一方戰後山西南部及陝西東部ニ

## 馮ノ衰勢

於テ殘軍處理ニ努メツツアリシ馮玉祥モ亦部下軍隊次第ニ分裂自滅ノ傾向ニ在ル爲結局ハ下野外遊ノ外ナキノ有様

## 中間軍閥ノ變度

ナル由傳ヘラレ且又韓復榘、馬鴻逵、石友三其他所謂中間軍閥モ敍上ノ形勢ニ鑑ミ敢テ中央ニ反抗スルモノナキカ如ク要スルニ戰後政局ハ次第ニ安定ニ向ヒ右傾向ハ中央ト東北トノ關係惡化セサル限リ茲暫ク存續スルモノト見テ差支ヘナキカ如シ。